

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100686		
法人名	社会福祉法人 つがる市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームゆうあいの里		
所在地	〒038-3302 つがる市豊富町屏風山1-377		
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームゆうあいの里は特別養護老人ホーム・認知症通所介護事業所と併設されており、利用者同士の交流や緊急時の連携が図られています。近隣には市民公園・認定こども園・物産館等があり、利用者は市民公園で遊ぶ子供たちを眺め癒されたり、散歩や買物に出かけることができ自然環境に恵まれています。また、地元の老人クラブや各種団体の慰問や行事への招待もあり、地域交流が盛んに行われているため、地域の一員としての繋がりをもち有意義に過ごせています。嘱託医による回診や歯科医の往診により健康面でも不安なく生活できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

近隣には認定こども園、物産館、市民公園があり、散歩がてら公園へ出かけたり、物産館へ買い物へ出かけ地域の人の交流が図れる様支援している。地域の人の訪問や老人クラブの行事などに招待され楽しみが継続出来る様支援している。コロナ禍で感染予防もあり外出は自粛傾向にあるが、こども園の園児が公園を散歩している時に窓際まで来て手を振ったりし顔を見せ利用者へ楽しみを提供されている。緊急時には法人本部の協力が得られる様になっている。看取りに関しては嘱託医、看護師と連携が整っており、本人、家族の意向も確認しながら住み慣れた場所で終末期を迎える事ができるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の一員として自分らしく暮らせるように、事業所内の目の留まるところに理念を掲示して意識できるように心掛けています。また、全職員が理念を共有し職員証の裏に入れていつも見るようにしています。	経営理念は目の届く場所に大きく掲示され日々の支援で意識している、職員の名札の裏にも理念が書かれた物を携帯し確認出来る様になっている。また、新人職員には理念について説明をし理解が図られている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや芸能大会、認定こども園の園児との交流を行っていた。コロナ禍により交流できない状況ではあるが、こども園の園児たちが散歩がてら窓のそばまで来てくれ、利用者は大変喜ばれています。	事業所での祭りや行事、訪問、老人クラブへの招待など地域の人との交流を行っている。コロナ禍の影響で自粛されているが近くのこども園の子達が散歩の際に窓の近くまで来てくれて交流されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により面会制限を行っていたが、面会できるようになり、直接相談を受けたり助言を行っています。また、随時電話でも受け付けしており、気軽に相談できるような雰囲気づくりに心がけています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催し、活動状況を報告し意見や助言を頂き、ホームの取り組みについて話し合いサービスの向上に繋げています。現在は、コロナ禍により書面会議にて開催しています。	定期的に会議が行われており、併設の特別養護老人ホームの職員も毎回参加されている。その場で色々なアドバイスや助言をもらい運営に生かされている。参加後は記録をまとめ全職員に回覧している。感染防止の為、書面での会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者にその都度相談したり、年に2回の地域ケア会議や運営推進会議で意見や助言を頂きサービスの向上に繋げています。	運営推進会議の場で市役所の担当者に相談されたり、その都度電話で連絡し、アドバイスや助言をもらいサービス向上に繋がられている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者に不穏な状況が出現した時は、その行動を止めるのではなく、受容し行動を共にし問題が解決して落ち着きを取り戻せるような支援方法を検討しケアを実践しています。また、研修を通して普段の支援で自分たちが知らないうちに身体拘束を行っていないか等を振り返りケアの改善に取り組んでいます。	身体拘束については入居前に本人や家族に説明されている。また、身体拘束についての勉強会やマニュアルも作成され、いつでも職員が確認出来る様になっている。利用者に変化があった時は毎日のミーティングで話し合い身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的・心理的虐待がないように、研修に参加した内容を全職員に伝達し理解を深め、言葉遣い等に気をつけ、虐待について全職員が理解し防止に努めています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等を通し、制度の理解と知識を得ています。また、法人本部で日常生活自立支援事業の基幹的社協となっており、専門員も配置されているため、いつでも支援できる体制ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等で十分な説明を行い、利用者や家族が理解し納得した上で契約の締結を行っています。その後も不明な事などに関しては随時説明し、家族との良好な関係作りを図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は、利用者の日頃の様子を報告しながらコミュニケーションを図り、意見や要望を気軽に話せる雰囲気作り心がけています。問題発生時には管理者と話し合いを持ち、積極的に家族の意見を伺い運営に反映できるように努めています。	日々のコミュニケーションの中で本人の意見や要望を聞き入れている。家族にも面会時に意見や要望を聞いている。困難な時は職員みんなで協力し意見を聞きそれらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝の申し送りに出席し、職員の思いや提案等を聞き、日々の業務がスムーズに行なえるように助言を行い、職員の意見を反映させています。	毎朝の申し送りで管理者は職員の意見や要望を聞き入れる体制となっている。また、職員が働きやすい環境を考えており、それをもとに仕事の向上に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいが持てるよう、心身に無理のかからない程度に勤務を組み、職員の希望した日の休みや有休がとれるように配慮しています。また、職員の意見を取り入れ職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修は積極的に受講させていましたが、コロナ禍により受講が難しくなっています。受講した場合は、伝達研修で全職員に情報を共有し実践に生かすよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、総会や研修、祭り等での交流は難しいが、電話等で情報交換を行いサービスの質の向上に繋げています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活が大きく変わらないように、生活の習慣等の情報収集を十分行っています。日常で新たな情報を得た場合は記録し職員間で共有し、本人の要望を受け止め、安心して生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴しながら、気軽に相談しやすい雰囲気作りに努め、要望や不安に感じることを解決できるような説明や話し合いを行い、安心してサービスを利用できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の関係者から情報収集を行い、情報を共有しながら必要とする支援を見極め、職員がかわりを多く持ち、馴染んでいただけるように工夫をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事を一緒に行い、毎日の生活の中で無理のかからない程度に心がけている。自発的にしてくださる事に対してはお礼を伝え、良好な関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報の発行や、電話で日頃の様子がわかるように説明しています。コロナ禍の状況にあるため、短時間の面会の中でも会話する時間を設けたり、受診時等には協力をいただいたり、良好な関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、現在は十分な交流は図れていませんが、コロナ流行以前は、近くの物産館や近くの店等では顔見知りの方々に会う機会があり、馴染みの方とおしゃべりなどの交流ができるよう支援していました。	近くの物産館へ出かける事で地域の馴染みの人との交流が継続できる様支援している。今はコロナの影響でその機会もないが、これからは交流が途切れない様に支援される準備がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人の把握をしています。好き嫌いはあるものの、助け合い仲良くしている様子もある為、その日の心身状態を見極め、利用者同士が穏やかに過ごせるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設する特養に入所となり、グループホームを退所となった利用者や家族とはお互い声掛けや挨拶をしたりと交流が図られています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から利用者の意向や希望を聞き出し、思いが達成できるようにミーティング等で話し合い全職員で共有しています。また、意志の疎通が困難な方は表情や行動から意向や希望を把握し、家族の意見を参考にしながら検討しています。	入居前には本人の生活状況を把握出来る様にしている。職員は日々、会話の中で利用者からの意見や要望を聞いてそれを全職員で共有している。また、意思疎通が困難な時は家族からの意見も取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より詳しく情報をいただき把握に努めています。また、職員は地元の者が多く、利用者の生活歴や生活環境を把握しており、わずかな情報をも収集するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の生活リズムを把握しています。毎日の心身状態等は、朝の申し送り等で話し合い、わずかな変化や可能性をも見つけ出せるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや家族の意向を聞き、モニタリングやカンファレンスを行っています。本人の状態変化や家族の要望の変化が生じた時は、介護計画の見直しを行っています。	職員みんなで本人や家族の意向を聞き、定期的にモニタリングやカンファレンスを行っている。利用者の状態変化時にはその都度、介護計画の見直しをされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌には職員の気づきや利用者の状態の変化やエピソード、家族からの要望等を記録し職員間で情報を共有しています。また、会議した結果をもとに実践したり介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の緊急な宿泊や訪問などには柔軟な対応やサービスを行っています。また緊急時は、併設の特養より看護師、介護職員の支援体制がとられています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるように、近くにある駐在所や地元の消防団に協力体制ができています。また、地域の町内会とも防災に関する協定書を締結しており、利用者の安全を支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所には協力医があり、予防接種や定期的な健康状態の把握、体調不良時等は診ていただいています。また、本人や家族が希望される専門医への受診も支援しています。	本人が今までのかかりつけ医の受診が出来る体制になっている。また、事業所には協力医があり、いつでも診てもらえる体制である。病院受診後は家族に報告し、安心出来る様支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師があり、日々の健康管理、病気の早期発見に取り組んでいます。また、併設の特養看護師にも相談したり、緊急時にはすぐ駆けつけてくれる等の連携が取れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族や病院との連携を密に行っています。連絡や報告や相談を受け、回復状況等の情報交換に努めています。コロナ禍以前は入院中に見舞い変化等の確認を行い、退院の受け入れに向け支援を行っていました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と本人、家族、職員など関係者と話し合い、本人や家族の希望に添うような支援をしています。又、本人家族が納得安心して終末期を迎えられるように随時意思確認をしながら取り組んでいます。	入居前に重度化や終末期についての説明がなされている。主治医や本人、家族と話し合い事業所で出来ることを説明し安心して最後まで生活できるよう支援されている。必要時には法人本部の職員からの協力が得られる体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行なっていないが、申し送り等で実践を想定した話題でシュミレーションしたり、事故発生時や緊急時の対応についてのマニュアルを作成しており、周知徹底しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は併設の特養と合同で年2回実施し、避難経路の確認をしています。地元町内会とも防災に関する協定書を取り交わしており、緊急時の協力体制を築いています。避難訓練にも参加協力を得ています。また、非常食材も3日分備蓄して災害時に供えています。	年2回併設されている特別養護老人ホームとの合同での避難訓練をされている。消防署との連絡報告もされ地域の方々にも緊急時に協力して貰える体制がとれている。非常食等の準備もされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を無視した対応をしないように、自己決定しやすく、また親しみやすくわかりやすい言葉かけに努めています。職員は個人情報や守秘義務について十分理解しています。	日頃から利用者に対しての言葉遣い等には職員みんなで気をつけている。また、気になる事があれば管理者はもちろん職員同士で言葉かけし、プライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話や行動、表情から思いをくみ取り、できる限り希望に添えるように努めています。また、職員の意見を押し付けることなく、自己決定できる場面作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調や気持ちを尊重し、本人が発しているサインを読み取り本人のペースに合わせた支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好む色やデザインの衣類で、その人らしいおしゃれが出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で自分達が収穫した野菜や、近所の物産館で買った季節の野菜を使用し、利用者が好む献立で調理したり、野菜や山菜の皮むきや食器拭きを一緒に行なっています。また、職員は一緒にテーブルで食事を摂り、楽しく食事できる雰囲気作りに心がけています。	食事について併設の事業所の栄養士に相談し、食事提供されている。食事の準備なども出来る方は一緒に行っている。また、職員も一緒に食事し楽しく食事ができる雰囲気作りをされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや状況を把握し、食事量や食事形態も個々に合わせて摂取できるよう対応しています。栄養バランスは特養の栄養士の意見も参考にしています。水分量も毎日記録し、脱水症状にならないように注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床後就寝前の口腔ケアを習慣化し、個々の状況に合わせて声がけ、見守り、介助等し、口腔内の清潔に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日個々の排泄チェックを行い、一人一人の排泄パターンに合わせ尿意のない利用者にも時間をみて尊厳を損なわないように声がけや誘導、排泄の自立に努めています。	一人ひとりの排泄チェックがされており、その方にあった排泄パターンに合わせ誘導をされている。それにより失敗することも少なく排泄の自立支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	個々の排泄チェックにて排泄パターンを把握し、便秘気味の方には水分補給や乳製品、繊維質の多い食材を提供したり、運動を取り入れるなど個々に対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	仲の良い利用者同士が一緒に入りたい場合やゆっくり浸かりたい等、利用者のその日の希望を取り入れ入浴の支援をしています。	決められた入浴日以外でも希望を聞きながら可能であれば入浴ができる様に支援している。また、入浴日以外では足浴や清拭を行い身体の清拭保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や表情を考慮しながら日中の活動を促し、一人ひとりの生活ペースで自由に居室で休んだり、入浴や足浴にてリラクゼーション効果で気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の効能や副作用等の説明書をファイル保存し、全職員にわかるようにしています。また、処方に変更があった場合は日報や申し送りノートに記入し周知徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理の下準備、野菜の収穫等、個々に合った役割を無理のないようにお願いし、経験や知恵を発揮できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の気分に合わせて買物や散歩に出かけたり、地域や近隣の施設の祭りに参加したり、家族と一緒に大型スーパーへの買物外出を恒例行事として行っていました。コロナ禍より外出が困難となっています。	近くの物産館に天気の良い日は散歩したり、車で外出などもあり、皆が喜んで外出出来る支援がなされていたが、今はコロナの影響で自粛されている。少人数でのドライブなどは行って楽しみが出来る様に支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理されている方は、お金を数えたり、いつも身につけているという安心感を持っています。また、外出した際はおやつの他に日用品等の購入を見守り支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる家族からの手紙や電話は随時受け付け対応しています。利用者からの希望で電話をしたい時に電話できるように支援を行なっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共有空間を整えるため、換気や空間に注意しています。居心地よい光や音を取り入れ、生活感や季節感を感じていただけるよう園内美化や掲示物等に配慮しています。	共有空間はみんなが居心地の良い場所作りがされている。照明も調整したり、温度、湿度の管理も行っている。季節にあった飾りつけもされている。また、時間をみて空気の入替も行い感染対策も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の皆さんの状態変化や利用者同士の関係性に配慮しながら、仲間と談笑したり一人で過ごしたりと、自由に過ごせる居場所づくりの工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には利用者が自宅で使っていた馴染みの物など自由に持ち込んでいただけるよう、家族と相談しながら本人が落ち着いて過ごせるように工夫しています。	今まで自宅で使い馴染んだ物を持ち込まれ安心して生活できる居室作りをされている。入居前に自宅に訪問し、本人の生活環境も見て入居後も同じく生活できるよう支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、身体機能の状態に合わせ、歩行しています。また、利用者の認識の違いや判断ミスを防ぐため、居室やトイレに目印を付け自立した生活が送れるように工夫しています。		